



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

10月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤尚子

したことしかできない

さくらだこども園では毎年、10月の半ば頃に運動会をしています。近年、夏の暑さが長引くようになり、今年の酷暑でまだ、様々に体を動かす遊びをするのにも、朝の時間や木陰を見付けての戸外遊び、屋内ホールでの運動遊びなど、時間や場所の工夫が必要です。

5歳児は、学年での朝リレーを続けていました。登園後の15分ほどですが、毎日走る内に走り方が滑らかになり、自分でも「速くなった！」と喜んで走る様子が見られます。一方で、「負けるから走りたくない…」と言いながらリレーに参加している幼児もいます。この幼児の思いは、客観的に観た「速さ」とは違っていています。「自分は速くなってきた！」と思える幼児は「もっと速く走れるようになる！」と思うので、チームが負けても「次はもっと速く走ろう！」とより力を出そうとする意欲がもてるのでしょうか。

今年度、さくらだこども園では「しなやかでたくましい幼児を育てる」を園内研究のテーマとし、幼児の心と体の育ちを考えています。先日、講師の先生に「幼児はしたことしかできない」との話を伺いました。多様な動きを自分の体で体験することで、幼児は体の動かし方を知っていく、一つ一つの動きが身に付いて、体は自由に滑らかに動くようになっていくということなのだと思えました。そして、動きの自由さは体験の回数によるとのことでした。もっとしてみようと思う心もちと、結果を恐れてやめておこうと思う心もちとでは、体を動かす回数は全然違うものになっていきます。体の動きの基にあるのは心のもちようということです。

今年度は、園として待ち望んでいた全学年一緒の運動会を予定しています。3学年の育ちの姿を見ていただけることを期待しています。年長児にとっても3学年の保護者が園庭に集まっている中での運動会は初めてのこととなりますが、その雰囲気を感じる体験も、緊張を乗り越えられる心もちを身に付けていくために必要なことと思っています。子どもたちの様々な体験を今後の成長につなげていくために、安心できるまで繰り返し体験できるように、子どもたちの心を支えていきたいと思っています。



—今月の指導のめあて—

- 〈3歳児〉
 - ・保育者や友達と一緒にいるうれしさを感じながら、かけっこやリズム遊びなど体を動かして遊ぶことを楽しむ。
 - ・身近なものを身に着けたり、自分なりに動いたりして、なりたいものになって遊ぶことを楽しむ。
 - ・木の実で遊んだり、虫を見たり、季節の食べ物を知ったりして秋の自然に親しむ。
- 〈4歳児〉
 - ・保育者や友達と一緒に伸び伸びと体を動かして遊んだり、学級や学年のみんなで活動したりすることを楽しむ。
 - ・落ち葉や木の実など、園庭の自然に触れ、季節の変化を感じたり、遊びに取り入れたりする。
- 〈5歳児〉
 - ・遊びや生活の中で必要なことを考え、自分から行動しようとする。
 - ・伸び伸びと表現したり、自分の力を発揮したりする充実感を味わう。
 - ・共通の目的に向かって、友達と力を合わせて取り組んだり競い合ったりする中で、満足感や充実感を味わう。

年長組は、小学校入学に向けての健康診断が、10月中旬より始まります。早退する方は、保護者会でお知らせしたように、必ず担任までお知らせください。ご協力をお願いします。